

【がん種】 **大腸癌**
【レジメン名】 mFOLFOX6
【登録番号】 160508
【1コースの期間】 2週間
【総コース数】 術後補助:12コースまで、進行・再発:PDまで
【催吐性リスク】 中等度:エルブラット、軽度:5-FU
【抗がん剤の組織障害性】 イリタント(炎症性):エルブラット(漏出時の冷却禁止), 5-FU
【投与量に制限のある薬剤】 なし
【主な有害事象】 編集中

【必要な検査】 編集中
【根拠論文】 N Engl J Med 350:2343-2351, 2004. J Clin Oncol 27:3109-3116, 2009. J Clin Oncol 22:229-237, 2004. J Clin Oncol 22:23-30, 2004. J Clin Oncol 23:4866-4875, 2005. J Clin Oncol 26:2006-2012, 2008. J Clin Oncol 26:2013-2019, 2008. J Clin Oncol 28:4697-4705, 2010. J Clin Oncol 25:1539-1544, 2007. Ann Oncol 19:1720-1726, 2008.

【点滴の時間】 [day1~]49時間35分

【費用】 編集中

【その他】 原則、CVポートを増設して治療を行う。

インフューザーポンプの使用可否:CVポートを造設している、外来で治療する場合(入院導入後に外来へ移行する場合には初回入院時も使用可能、外来に移行せずに入院で治療を継続する場合には使用不可)。

インフューザーポンプ使用時

Rp	薬剤名	量	投与方法	投与時間	投与日				
					1	2	3	...	14
1	生理食塩液 250mL	1 B	メイン	キープ&フラッシュ	○				
2	生理食塩液 100mL	1 B	側管	30分	○				
	アロキシン静注 0.75mg	1 V		フィルター使用					
	デカドロン注射液 1.65mg/0.5mL	2 A							
	デカドロン注射液 6.6mg/2mL	1 V							
3	5%ブドウ糖液 250mL	1 B	側管	2時間	○				
	レボホリナート点滴静注用「ヤクルト」	200 mg/m2		フィルター使用					
	4のエルブラットと同時に開始								
4	5%ブドウ糖液 250mL	1 B	側管	2時間	○				
	エルブラット点滴静注液	85 mg/m2		フィルター使用					
	3のレボホリナートと同時に開始								
5	生理食塩液 50mL	1 B	側管	全開	○				
	5-FU注	400 mg/m2		フィルター使用					
6	5-FU注	2400 mg/m2	側管	46時間	○				
				インフューザーポンプ使用					
7	デカドロン錠 4mg	1 錠/回	内服	1日2回朝食後		○	○		

インフューザーポンプ未使用時

Rp	薬剤名	量	投与方法	投与時間	投与日				
					1	2	3	...	14
1	生理食塩液 250mL	1 B	メイン	キープ&フラッシュ	○				
2	生理食塩液 100mL	1 B	側管	30分	○				
	アロキシン静注 0.75mg	1 V		フィルター使用					
	デカドロン注射液 1.65mg/0.5mL	2 A							
	デカドロン注射液 6.6mg/2mL	1 V							
3	5%ブドウ糖液 250mL	1 B	側管	2時間	○				
	レボホリナート点滴静注用「ヤクルト」	200 mg/m2		フィルター使用					
	4のエルブラットと同時に開始								
4	5%ブドウ糖液 250mL	1 B	側管	2時間	○				
	エルブラット点滴静注液	85 mg/m2		フィルター使用					
	3のレボホリナートと同時に開始								
5	生理食塩液 50mL	1 B	側管	全開	○				
	5-FU注	400 mg/m2		フィルター使用					
6	生理食塩液 500mL	1 B	側管	46時間	○				
	5-FU注	2400 mg/m2		フィルター使用					
7	生理食塩液 100mL	1 B	メイン	キープ&フラッシュ		○			
8	デカドロン錠 4mg	1 錠/回	内服	1日2回朝食後		○	○		